

# 広報の歩み



## 創刊号

昭和37年4月20日発行 特集号  
B5判1色刷り 4ページ  
役場の機構改革と事務形態の改善をお知らせするための特集号として発行された。窓口事務の一本化、事務改善のための配置変更や37年度予算編成方針などを紹介している。写真は、役場の窓口と磐梯山の2枚。



## 100号

昭和44年9月1日発行  
A4判1色刷り 4ページ  
町民体育館と長瀬小学校の起工式、長瀬連絡所の落成式、川桁のトマト共選場の完成などを紹介している。また、広報いなわしろ創刊100号を1ページで特集。「よく知らせ、よく聴くことで、一層親しまれ、役立つ広報紙に」と締めくくっている。

## 200号

昭和52年6月10日発行  
A4判1色刷り 14ページ  
発行200号を記念して、「広報200号の歴史」という特集が組まれた。創刊号からの歴史、県広報コンクールの入賞、タイトルの移り変わり、歴代広報担当者からのアドバイスや広報紙ができるまでなどを4ページにわたり紹介している。「町職員全員が広報マンになってほしい。住民の皆さんの協力も必要です」と当時の担当者が語りかけます。いつの時代も、担当者の思いは同じなのかもしれません。



# 特集 町民の皆さんと共に歩んで 600号



毎月1回、町が発行する「広報猪苗代」昭和37年4月の創刊号から数えて今月で600号を迎えました。これまでの道のりを振り返るとともに、広報猪苗代はどうあるべきかを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

## 300号



昭和60年10月10日発行  
A4判1色刷り 12ページ  
決算のお知らせや町の話などを紹介している。東西長寿番付に掲載されているのは、わずか75人だった。表紙はシリーズの「猪苗代三十三観音」。掲載される写真も多くなりました。

## 400号



平成6年2月10日発行  
A4判1色刷り 12ページ  
町内で開催された全日本学生スキー選手権大会を2ページの組写真で紹介。成人式の写真も大きい。表紙には、翌年開催される冬季国体を成功させようというロゴが入っている。

## 500号



平成14年6月10日発行  
A4判1色刷り 20ページ  
市町村合併と下水道整備計画をそれぞれ2ページで紹介。まちのわだい、笑顔でこんにちは、保健だよりや町のお知らせなど、現在の広報まで続いている企画が見られる。

### その他の歩み

- 38年12月1日第21号 広報初の特集 財政白書
- 39年11月1日別冊 町村合併10周年記念号を発行
- 40年5月1日第41号 A4判4ページに 同月、別冊財政白書特集号の発行を開始。49年の11月号まで毎年発行
- 48年1月1日第147号 初めて表紙にカラー写真が登場
- 49年8月20日別冊 虚礼廃止特集号を発行
- 51年11月5日別冊 冷害特集号を発行
- 52年2月15日別冊 豪雪特集号を発行
- 52年6月20日 広報縮刷版を発行
- 59年4月10日第282号 以降毎号表紙、裏表紙がカラーに
- 63年8月10日別冊 磐梯山噴火百周年特集号を発行
- 平成3年11月 広報縮刷版第2号を発行
- 19年4月10日第558号 表紙が全面写真に

創刊から48年と6カ月、第600号という節目を迎えた広報猪苗代。これまでの道のりを振り返ります。

前身は公民館だより  
昭和30年、1町4村が合併して猪苗代町に。4カ月後、長瀬村と合併して、現在の猪苗代町が誕生しました。その数カ月後、広報猪苗代の前身、猪苗代町公民館だよりが発行されました。第1回町長杯囲碁将棋大会の開催目的を、合併後の旧町村のふすまを取り払い、町民の融和を図ることと紹介していました。行政と町民の間に立ち、その橋渡しをする広報紙に、どこか通じているような気がします。

広報いなわしろ創刊  
37年4月、役場の機構改革に伴い、広報いなわしろが誕生しました。基本的には月に1号のペースで発行されましたが、財政白書特集号など、別冊号が出ることもありました。そのため、第600号でぴったり50年ということにはなっていない。



# 皆さんにもっと必要とされる 広報猪苗代へ



デザインは変わっても大切なものは変わらない広報紙でありたい

## 広報とは

48年前、広報いなわしろが発行された目的は、民主化、合理化、そして人間化が求められる行政において、住民に行政情報をお知らせすることでした。半世紀が過ぎた今でも、基本的なことは変わっていません。広報発行の目的は、町の施策や仕事をわかりやすく、正確に町民の皆さんにお知らせすることです。月に1回、確実に皆さんの家庭に届けられる広報紙は、情報をお知らせしているという意味では、その役目を果たしているかと思えます。しかし、情報をお知らせしただけで、広報紙の役割を果たしていると言えるのでしょうか。

「○○制度ができました」「○○をしましょう」と、紙面でお

知らせやお願いをしても、小難しい表現やお役所言葉が並んでいたら、簡単に読み飛ばされてしまいます。それを読んだ人が「じゃあその制度を利用してみよう」「わたしも○○をしてみよう」と思わなければ、お知らせした意味がありません。情報が届いたかどうかは、物理的なものではなく、皆さんの心に届き、少しでも何かを与えたかということなのではないでしょうか。

## 共有する

広報が発信した情報が、正確に皆さんに伝わる。それは皆さんと行政が、情報を共有したということ。同じ情報を持ち、同じ意識を共有することで、対等の関係ができます。それは、最近よく耳にする、協働のまちづくりの基本でもあります。

まちづくりの主役が、この町に住んでいる皆さん一人一人であることは、言うまでもありません。現在、町が置かれている状況や施策を、皆さんに正確に知ってもらい、次は、行政が皆さんの考えや意見を聞いて共有する。この相互理解が、協働のまちづくりへの第一歩なのではないでしょうか。

## 協働する

猪苗代町には、素敵な場所がたくさんあります。素晴らしいものがたくさんあります。そして、頑張っている人がたくさんいます。広報猪苗代は、そんなものや人を紹介し、応援します。まちの新たな魅力や頑張っている人を知り、もっと猪苗代を好きになる。このまちに住んでいることを、誇りに思う。すると、自分たちの住むこのまちをもっと良くしたいという気持ちが出てきます。その気持ちや行動は、まさに協働のまちづくりそのものなのです。

皆さん一人一人と行政が情報を共有し、相互理解を深め、それをまちづくりなどに生かしていく。それが広報紙の役割であるならば、広報を作っているのは、皆さん一人一人であるとも言えます。

広報猪苗代は、皆さんのためにあり、皆さんに必要とされる広報紙であり続けたいと願っています。そして、そのためには、わたしたち行政の努力はもちろんのこと、町民の皆さんの協力が欠かせません。これからも広報猪苗代を一層に作り上げていきましょう。

## 広報猪苗代ができるまで

皆さんが今、手に持って読んでいる広報猪苗代は、このように作られています。



- ①企画  
町の施策、お知らせや町民の皆さんから寄せられた情報などから、今伝えるべきものを、どのように伝えるかを考え、企画を立てます。
- ②取材  
さらに詳しい情報を得るため、また、皆さんに伝える写真を撮影するために取材に出かけます。
- ③編集  
文章を考え、写真を選び、紙面を作ります。



- ④入稿・校正  
編集を終えたデータを、業務内で校正し、印刷会社に渡します。印刷会社の試し刷りで、写真の色などをチェックします。修正がなければ印刷へ。
- ⑤印刷  
印刷会社が印刷・製本をします。
- ⑥納品  
毎月10日に納品された広報(土、日、祝日の場合は後にズレます)に、職員がチラシなどを折り込み、地区ごとにまとめます。
- ⑦配布  
契約した運送会社が、各区長のもとに届けます。区長や担当者などが各家庭に配布します。行政区外の人には直接発送します。



皆さんのお手元へ

## Interview

## 広報の達人に聞く

### 担当者の愛と情熱が生み出した理想の広報紙

皆さんは、毎月家庭に届けられる「広報猪苗代」を当たり前だと思っていますか。一般的に広報紙の配布エリアは発行自治体のエリア。他の自治体とはなかなか比較できません。

「猪苗代」は、福島県広報コンクールで入選した全国トップクラスの広報紙です。広報紙を企画・編集する担当者の愛と情熱、不断の努力が成し得た猪苗代の自慢の一つです。

IT化が進み、パソコンやケータイがあれば、いつでもどこでも、誰でも、世界中の情報を入手できるようになりました。このような中で、手にとってもらえるだけの品格や品質と読者が満足できる内容の両方がな



岩手県藤沢町 広報担当

**島山 浩 さん**  
Koh Hatakeyama

**Profile** 1999年から広報を担当。全国広報コンクール入選11回、うち内閣総理大臣賞2回。地域住民への愛にあふれる広報紙を作り続け、全国の広報担当者から目標とされる広報界のトップランナー。